

## 台湾はなぜ親日か？

# 不毛の大地だった嘉南平野を緑の 沃野に変えた八田ダム

### ■6台湾の神様になった森川巡查■

森川清治郎は明治30年、台湾に渡り、南西部の台南州(今の嘉義県)東石郷副瀨村の派出所に勤務した。森川巡查は、村内の治安維持に努める一方、派出所の隣に寺子屋を設け、手弁当で、子供たちのみならず、大人たちにも日本語の読み書きを教えた。

また朝早くから田畑に出て、どうしたら生産が上がるのか、村民とともに汗を流して実地に指導したり、病人が出ると飛んでいき、薬や医者の手配まで世話をした。

ある年、総督府は漁業税を制定した。しかし貧しい村のこと、なんとか税の軽減をお願いできないかと村民は一致して、森川巡查に嘆願した。巡查は「納税は日本においても義務であり、何とも仕方がない。しかし生活が極めて苦しい実情を見ると忍びない。税金の軽減については、その意を上司に伝える」と約束した。

そして税の減免を支庁長に嘆願したが、逆に森川巡查が村民を扇動していると曲解され、懲戒処分にされてしまう。村民のために尽力してきた森川巡查にとって、この懲戒は無念やる方なかっただろう。自ら村田銃の引き金を引いて自決した。銃声を聞いて駆けつけた村民たちは、変わり果てた巡查の姿を見て、嘆き悲しみ、村の共同墓地に懇ろに吊った。

それから、約20年後の大正12年、この地域で伝染病が流行した時、村長の夢枕に制服姿の警察官が出てきて、「生水や生ものに注意せよ」と告げた。村民にその注意を守らせると、伝染病はおさまった。

村民たちは、自分たちの親や祖父母が一方ならぬ世話になった森川巡查が、死後も自分たちを護ってくれていると感謝し、巡查の制服制帽の姿を木像で作り、義愛公と呼んで祀った。この「日本人の神様」は、今でも「観音様、媽祖様、義愛公様」と、人々の信仰を集めているという。[3,p131]



## ■7蓬萊米を開発した末永仁と磯永吉■

日露戦争後、台湾は食糧不足に悩む日本本土にコメを輸出するようになった。しかし台湾米はインディカ種であって、内地人の食習慣に合わず、価格も三等米の半分にしかならなかった。明治43(1910)年、「コメを改良して、台湾農民に生きる道をと」の志を抱いて、農業技術者末永仁が台湾に渡った。末永は、磯永吉という農学徒と出会い、二人で台中州で台湾米の改良に取り組んだ。

二人は10年の歳月をかけて、千余種の改良品種を実験し、ついに大正10年「台中65号」の開発に成功した。それは台湾の気候によく合い、収量性、耐病性、そして美味にも優れた画期的な品種であった。大正15年当時の伊沢台湾総督はこの台中65号を「蓬萊(台湾の美称)米」と命名し、増産に大きな期待をかけた。磯はその後、博士号を得て、台北帝大農学部教授となり、島内での蓬萊米作付けの奨励と指導に大きな力を発揮していく。

磯は、終戦後も中華民国政府に農業顧問として留まり、台湾の農業発展につくした。昭和32年の帰国時には、異例の最高勲章を授与され、同47年の死去まで、毎年20俵ものコメが年金の代わりに贈られた。[3,p130]

## ■8台湾の土となった明石元二郎総督■

大正7(1918)年に赴任した第7代総督明石元二郎は、日露戦争でロシア革命を支援し、勝利に大きく貢献した蔭の立役者であった。明石は赴任すると、まず各地の巡視を丹念に行い、民情の把握に努めた。

台北刑務所を巡視した際には、受刑者は二十四、五歳に多いという説明を受けると「それはまことに、相済まぬことである」と言った。

二十四、五歳の受刑者といえ、日本統治が始まってから生まれた計算になる。明石は、日本統治にまだまだ至らないところがあるために、青年の犯罪を生んでいると考え、さらなる善政への決意を新たにした。

明石の在任期間は1年4カ月と極めて短い。しかしその間に日月潭水力発電事業、台湾新教育令(内地人との教育上の区別を少なくし、台湾人にも帝国大学への道が開かれた。ちなみに現在の李登輝総統は京都帝国大学出身)、道路や鉄道など交通機関の整備、森林保護の促進など精力的に事業を進めた。

台湾統治に並々なめ力を注いだ明石総督は、未来の総理大臣という呼び声も高かったが、惜しくも赴任後一年間余にして病死した。その遺言により遺体は台湾に埋められ、人々の多額の寄付によって200坪もある壮大な墓が作られた。[3,p43]



台湾の土となった明石元二郎総督

## ■9東洋一の大水利事業を完成した八田與一■

嘉南平野は台湾南部に広がる最大の平原で、香川県ほどの面積をもち、台湾の全耕作地面積の6分の1を占める。しかし雨期には集中豪雨のたびに河水が氾濫し、乾期には旱魃に襲われる。農作物がほとんど育たない不毛の地であった。

総督府土木課に奉職する八田與一は大正9年から十年の歳月をかけて、上流の烏山頭で大規模なダムを造り、平野部に1万6千kmもの給排水路を張り巡らすという、東洋最大の水利事業を完成させた。アメリカの土木学会から「八田ダム」と命名され、世界的にも注目されたこの事業によって、不毛の大地であった嘉南平野は緑の沃野に変わった。[3,p175]

台湾の民衆がこれをいかに受けとめたかは、昨年4月、嘉義県の呉明○(章に榎のつくり)氏が自費出版した「嘉南大○(土へんに川)建設工事簡介」の次の文章からうかがわれる。[5]

当時東洋一の大水利事業を完成して、不毛の平原を台湾一の穀物の宝庫に変えた功績は、永久不滅である。現在もなお嘉南(嘉義、海南、雲南)の農民に父のように慕われている八田技師の名は永遠に残るであろう。

戦後、日本人の銅像はことごとく引きずり倒されたが、ただ独り八田技師の銅像が、今なお守り続けられている。さらに、同夫妻の墓も作られて、5月8日の命日には毎年欠かさずに、華南の人々によって供養が続けられている。愛や教育や宗教には国境がないことを如実に物語っている。



## ■10台湾 加油(がんばれ)■

日本が台湾を植民地にした事には、いろいろ議論がある。しかし、明治日本はそのかけがえのない人材を惜しみなく台湾統治に注ぎ込み、これらの人々はある種の同胞感を抱いて、心血を注いで台湾の民生向上と発展のために尽くした。この事は、台湾の民衆にもよく伝わり、それが「多桑」世代の親日感を生み出した。

これらの日本人たちの努力に呼応して、台湾からも多くの偉大な人材が輩出したのだが、これはまた稿を改めて紹介したい。

大陸中国の圧迫に耐えながらも、台湾は、今日、世界でも有数の経済力を誇る民主主義国として発展した。本稿で紹介した人々は、それを草葉の陰で何よりも喜んでるに違いない。

今回の大地震で、日本からの励ましの投書が台湾の新聞にも掲載された。「台湾 加油(がんばれ)」というそのタイトルは、そのままここに紹介した我が先人たちの思いでもあろう。

### ■ 参考 ■

1. 「台湾大地震 日台に『好ましい影響』」、産経新聞、H11.09.28
2. 「光る『日本人パワー』」、産経新聞、H11.9.27
3. 「台湾と日本・交流秘話」、許國雄監修、展転社、H8.4
4. 「後藤新平と新渡戸稲造 台湾時代を中心に」、佐藤全宏、月刊日本、H11.7
5. 「八田與一」、月刊日本、H11.5

### ■ リンク ■

JOG(061) 李登輝総統の志

JOG(062) 台湾史に見る近代化の条件

### ■ 出典 ■

国際派日本人養成講座 平成11年10月09日 N0108 発行人：伊勢雅臣氏

東洋一の大水利事業を完成した八田與一氏  
今でも人々の信仰を集めている森川清治郎巡査の像

カテゴリ: コラム フォルダ: 指定なし   

コメント(7)

タグ: 伊勢雅臣 森川清治郎 末永仁 磯永吉 明石元二郎 八田與一 台湾加油

コメント(7)



Commented by **花うさぎさん**  
・お詫び

2009/02/05 17:03

写真説明が編集集中に吹っ飛んでしまいました。レイアウトがバラバラになるのが怖いのでこのまま行きますのでご了承下さい(--)



Commented by **九煙洞老人さん**

2009/02/05 19:01

ダムを作った八田与一の功績が称賛されるのは当然ですが、その水利を使って、緑野に変えた功績者は中島力男です。  
現地では中島も八田同様、語り伝えているはずですが。  
機会がありましたら、ぜひ取り上げていただきたいと思います。



Commented by **stctakuさん**

2009/02/05 22:00

台湾の八田与一に当たる日韓併合時代の野口遵ではないでしょうか。  
大規模な水力発電所(50万キロワット)を赴戦江・長津に日本の私企業が建設した。また実業界から引退した時に、朝鮮総督府に3000万円を寄付した。  
残念ながら、このような功労者が讃えられることはない。



Commented by **hoihoihoiさん**

2009/02/05 23:38

花うさぎ様

八田與一誌の話は以前エントリーしたことがあります。多くの日本人が台湾の方と一緒にあって、大仕事を成し遂げています。ひとつ、現代でも日本が台湾と組んで成し遂げた仕事があります。新幹線です。最初はドイツだかフランスだかのものに決まっていた。日本はJR東海が入札に加わったのですが、外国の三倍ほどの予算だったかで駄目でした。台湾には地震が多いと知りその費用が大きかったそうです。

その後、台湾に大地震が起きます。外国のものは対震性を考慮していませんでした。そこで台湾に泣きつかれたJR東海は線路の土台からチェックを始めます。最低限治して何とか組み上げました。勿論台湾の方の運営を目指し、数年の指導機関です。人が始めた工事の後を尻拭いするのは大変だそうで、そこそこ安全、というものを作り上げました。制御方を伝授中とかです。日本の職人でないと、あんな複雑な仕事は出来なかったろうとの事で、現在も感謝されているそうです。専門家としては不満が残る仕事だとか、デモ現象はしょうがないから、と語っています。



Commented by **花うさぎさん**

2009/02/05 23:40

To もうろく老人さん こんばんは。

>ダムを作った八田与一の功績が称賛されるのは当然ですが、その水利を使って、緑野に変えた功績者は中島力男です。

ご指摘ありがとうございます。

本来なら八田与一・中島力男の話だけで単独のエントリーを立てても足りないぐらいですが、ダイジェスト版ということでご容赦下さい。

日を改めて二人をもっと詳しく取り上げたいと思います。



Commented by **花うさぎさん**

2009/02/05 23:48

To stctakuさん こんばんは。

> 台湾の八田与一に当たる日韓併合時代の野口遵ではないでしょうか。  
>大規模な水力発電所(50万キロワット)を赴戦江・長津に日本の私企業が建設した。また実業界から引退した時に、朝鮮総督府に3000万円を寄付した。

ご指摘感謝です。台湾に貢献した日本人はいまでも感謝されて名を残しているのに比べ、半島振興に尽くした日本人は浮かばれませんね。

恩を仇で返す朝鮮人のDNAからすれば、あれほどつくした野口遵ですら糾弾の対象でしょう。折を見て彼の足跡をエントリーとしてあげたいと思っています。



Commented by **花うさぎさん**

2009/02/05 23:54

To hoihoihoiさん こんばんは。

> 八田興一誌の話は以前エントリーしたことがあります。多くの日本人が台湾の方と一緒に  
なって、大仕事を成し遂げています。

おっ、そうですか。拝見に行きます。

[台湾新幹線](#)についてはつい最近も産経新聞が取り上げていたと思います。こちらは今、  
現実の話ですのでより重要ですね。